

モモせん孔細菌病の発生には、 土壌化学性や新梢長は、関係しない

福島県農業総合センター 生産環境部 環境・作物栄養科

1 部門名

果樹－モモ

2 担当者名

湯田美菜子

3 要旨

一部では、モモせん孔細菌病の発生は窒素肥料の多施用や新梢長の増大により助長されると言われている。そこで、2017年および2018年に収穫直前の「あかつき」（7月中下旬）と「ゆうぞら」（8月中下旬）のモモせん孔細菌病発病葉率と8月中下旬に採取した土壌（深度0-15cm）の化学性と新梢長の関係を解析したところ、2か年にわたり同一の関係性がある項目はなく、発病を助長する要因は確認されなかった（図1）。そのため、モモせん孔細菌病の発生は、施肥に起因する土壌化学性や新梢長よりも、天候や菌密度等周辺環境要因の影響が大きいと考えられた。

- (1) 「あかつき」は、2017、2018年の2か年にわたり発病葉率と関係性が認められる項目はなかった（図1上段）。
- (2) 「ゆうぞら」は、2か年にわたり発病葉率と関係性が認められる項目はなかった（図1下段）。

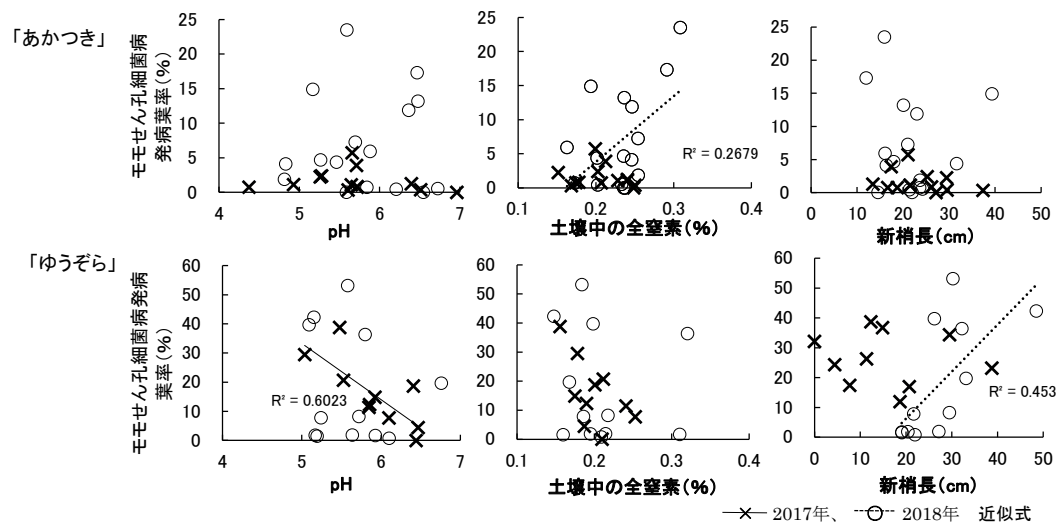


図1 「あかつき」、「ゆうぞら」のモモせん孔細菌病発病葉率と土壌分析値(pH、全窒素)、新梢長の関係(2017年、2018年)

注1) 調査地点は県北地方の「あかつき」が2017年16地点、2018年15地点、「ゆうぞら」が両年10地点
 注2) 土壌分析は9項目、樹体項目4項目を調査、そのうち代表する3項目を掲載

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成28年度～平成30年度
- (2) 研究課題名 果樹病害虫の防除法改善試験〔農研機構生研支援センター 革新的技術開発・緊急展開事業(うち地域戦略プロジェクト)〕

5 主な参考文献・資料 なし